

小城市立小城中学校

令和6年度 全国学力・学習状況調査の分析と今後の取り組みについて

令和6年10月

中学3年生を対象に今年4月に実施された、全国学力・学習状況調査(国語・数学・意識調査)について、結果の分析と今後の取り組みをお知らせします。

国語、数学については、学習指導要領の内容「知識・技能」「思考・判断・表現」別に分析と改善に向けた取り組みをまとめています。

また、生活習慣に関する意識調査については、全国・県と比較して数値がとくに高かった項目、低かった項目点についてグラフ化し、結果の分析と今後の取り組みについて示しています。

【小城中学校の国語、数学調査の正答率について】

国 語：正答率は国・県の平均と比べ「やや下回る」

数 学：正答率は国・県の平均と比べ「下回る」

【個人票(調査結果)について】

本資料とともに生徒に配付しています。

なお、採点は国で行っているため、答案用紙の返却はありません。

【今回の調査を受けて】

今回の調査を受けて、職員で結果分析と今後の具体的な取り組みについて協議しました。強みとなっている部分をさらに伸ばしていくとともに、弱みとなっている部分に対する効果的な展開を実践していきます。

小城中では「起床時間、就寝時間が一定の生徒が多い」「1日当たりの読書時間が多い」という調査結果が出ています。一方で、「家庭学習時間があまり確保できていない」「スマートフォンやゲーム時間の長さ」が課題です。学校でも、将来に向けた学習の必要性、取り組みの手立てなどを伝えていきますが、学校と家庭が両輪となって、課題の改善を図ることが必要と考えます。保護者におかれましても、子どもたちの健やかな心身の成長のため、本校の取組に御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査《 国語 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

○設問内における情報の読み取りや語句・語彙の理解、また複数の情報を関連付けて思考する力に弱みがある。

○記述式問題の無解答率が比較的高い。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	○漢字を正しく書くことができていない。 ○行書の特徴について、既習内容が定着していない。 ○文の成分及び文節同士の関係の理解が十分ではない。 ○問題に使われている語句（具体・抽象・推測・意見）や、接続詞（つまり）の役割が理解できていない。	○漢字の小テストによる取り組みを継続すること、短文作りなど実の場を設定していく。 ○書写の学習において、行書の特徴を明確にしながら取り組む。 ○文法については、教材を読む際や作文の際にポイントを押さえて反復する。 ○意味調べや類義語・対義語の確認を行い、短文作りなどの中で定着を図る。
思考・判断・表現	○表現技法の知識は有しているが、応用的かつ創造的な表現をすることが難しい。 ○目的に応じて、必要な情報に着目して要約することができていない。 ○複数の情報を関連付けて整理したり、表現したりすることが難しい。 ○本文と資料の関連性を見出して表現することはできている。	○単元を通して身に付けた知識を応用して表現する機会を、まとめの時間や定期試験などで設定する。 ○要約のポイントを整理し、実践を通して力の定着を図る。 ○複数のメディアや情報の整理を必要とする言語活動を設定する。

◆令和6年度全国学力・学習状況調査《 数学 》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

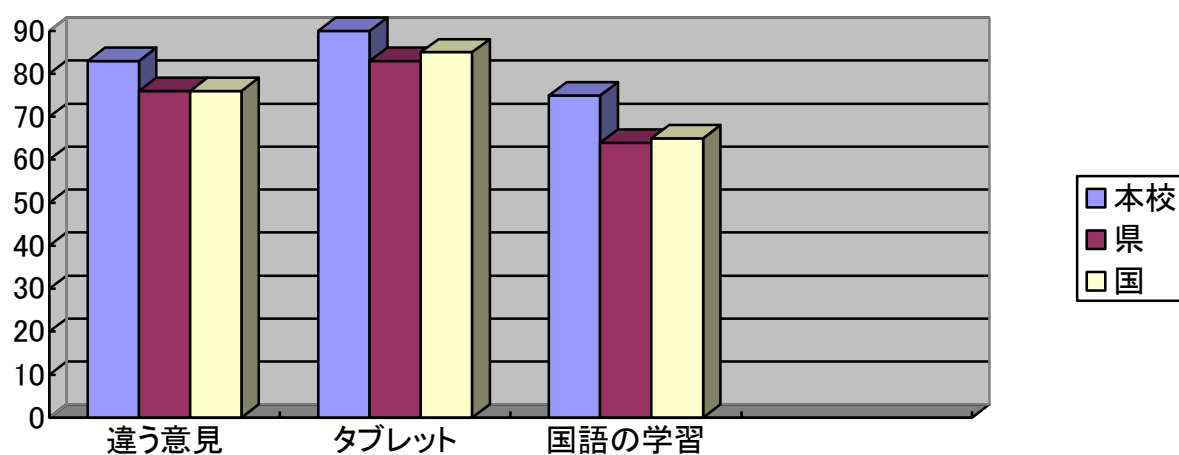
- 「数と式」「関数」「データの活用」の各領域（「図形」を除く全領域）において、正答率が県の平均値より低い
- 「知識・技能」「思考・判断・表現」の両観点において、正答率が県の平均値より低い。

観 点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	○「2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏ができる確率を求めなさい」という問題で、表裏の出方が全部で4通りあるという場合分けができていない生徒が多い。 ○「四分位範囲がどのように変わるか」という問いにおいて「四分位範囲」とは何かが分かっていない。 ○問われた内容の理解が不足している問題が見られる。	○樹形図を使って、表裏の出方が3通りではなく、4通りであることを指導する。 ○1年で学習する「中央値」「範囲」を含め、「第1四分位数」「第3四分位数」「四分位範囲」という用語の意味を覚えさせる。 ○問題をきちんと読み、何を使って考えればいいのかを考える習慣を身につけさせる。
思考・判断・表現	○三角形における○の数の和と□の数の和を文字で表す問題で、文字の式が表す意味を理解できていない生徒が多い。	○「$2n$ は偶数を表し、$2n-1$ や $2n+1$ は奇数を表す」などのように、式が表す意味を理解させる。 ○発展的問題では、基本となる問題からどのように発展しているか方向性を考える習慣を身につけさせる。

生活習慣に関する意識調査

県・全国と比べて数値が高かった項目

	調 査 の 項 目
1	授業で自分と違う意見について考えることが楽しい
2	1・2年の時、授業でタブレットを使って、友人と協力して学習に取り組めた
3	国語の学習が好きである



分析と取り組み

①【分析】授業で協力して課題に取り組むことへの関心が高い。

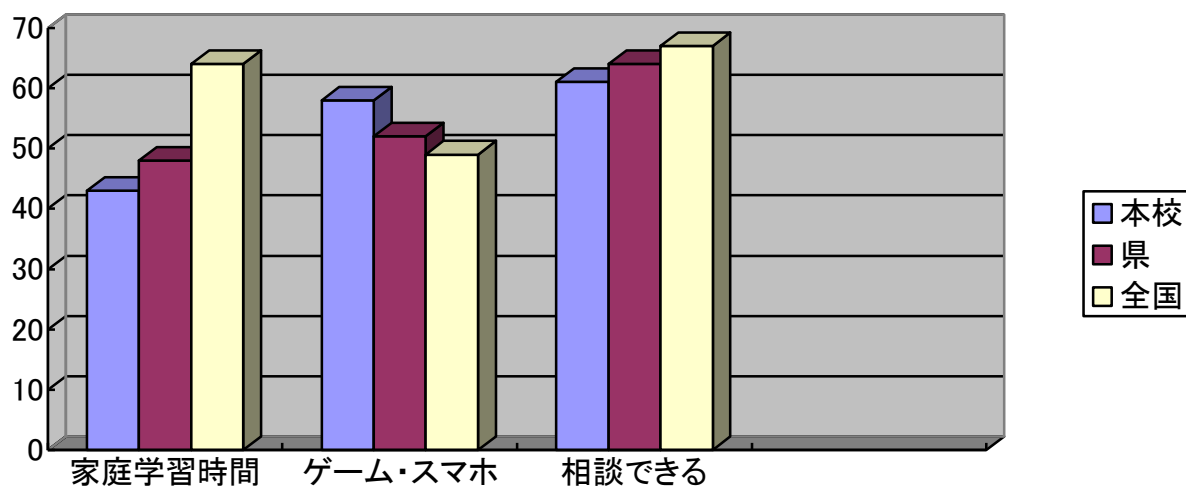
【取組】生徒主体の学習形態を授業に取り入れるとともに、一人一台端末（タブレット）を効果的に活用する。定期的に一人一台端末の活用法について職員研修に取り組む。

②【分析】国語科の学習に対する意欲が高い。

【取組】生徒の興味関心を高める課題を各教科で設定し、知識・技能面の定着のみならず、思考・判断・表現力面の育成を図る。

県、全国と比べて課題となる項目

	調 査 の 項 目
1	1日の家庭学習を「1時間以上取り組んでいる」
2	ゲームやスマートフォンを「1日2時間以上している」
3	困りごと、不安を先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



分析と取り組み

①【分析】授業中は努力している傾向にあるものの、家庭学習時間が平均に比べて数値が低い。
1時間に満たない生徒の割合が全体の6割近くとなっている。

【取組】自主学習の取り組み方について、各教科で具体例を示す。面談や学校便りを通して、
家庭との連携強化を図る。

②【分析】困りごとや不安をいつでも相談できると感じている生徒の割合が若干低い。

【取組】教育相談体制の充実に加え、日頃より生徒の様子に異変が見られないか、各教員が
アンテナを立てて見守っていく。いろんな場面において、教員から生徒への声掛け
を行い、安心して相談ができる関係の構築に取り組んでいく。